

生徒の感想文

私はこの体験学習を通して、今生きていることや何事もなく幸せに暮らせていることがあたりまえではないことをあらためて実感しました。私が特に印象に残っているのは「MEET門脇」での東日本大震災によってご家族を亡くされた方のお話でした。ご家族の方たちが私達のために、思い出したくないことかもしれないのに、辛いお話をしてくださり、「本気で災害によって失った命を無駄にしたくないんだ」と思わせられました。その後の八開中学校、立田中学校と三校でおこなったワークショップでは命の大切さについて学びました。

そこでは、「どんなに頑張っても取り戻せないものの重み」や「命と尊厳を大切にすること」を学びました。これらを学びこれからは「やっていればよかった…」と後悔しないように考えて行動し、自分の命や、まわりの人の命を守っていききたいと思いました。

僕はワークショップや伝承館で写真を見て、津波やその津波に入ったガソリンによって火災が起きることを知り、東日本大震災はずっと津波のイメージが強かったけど、火災もあることを知り、悲惨さが伝わった。カタチがあれば、時間と人手とお金があれば、取り戻せるが、カタチがないもの(命)は何をしても戻ることはない。先生の話をちゃんと聞いていたのに、先生の判断ミスで亡くなってしまう。この災害をむだにしないように、とりもどせないその重みをしっかりと理解し、持ち帰り、家族に伝えたいと思った。地震が起きたら、素早く逃げて、海から遠く、高いところへ逃げれば助かるから、日々避難場所を確認しておきたい。釜石のきせきのように死亡者0にできるように避難訓練をもっと真剣に受けたい。最後に語り部さんが話してくれたことを死ぬまで忘れずに、これからの人生を過ごしていきたい。そして後世に伝えていきたい。

今回の中学生体験事業で私は、震災についての自分の考えの浅さを実感しました。近年災害が多く、よくニュースなどで「津波Om」「震度〇」と聞く事が多かったように思えます。今までの私は、震災の被害について、どこか他人事のように情報を数字で聞くだけで、実感をもって触れることはありませんでした。でも、今回の体験で実際に被災地に行き、被災された方の話を聞いた事でやっと、自分事として震災をとらえる事ができました。今回の体験で特に私の記憶に残っているのは、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館です。そこでは校舎を見学してもらいました。車が壁にめりこんでいたり、ある部屋にあったソファが何mも先の部屋に流されていたりと、想像を遥かに超える様子が残っていました。そんな光景を前に語ってくれていた語り部さんは「とにかく遠く高いところへすばやく逃げよう」という事を必死に伝えてくれました。津波が来てからではもう遅いという現実を目の当たりにしたからこそ、より防災に力を入れていこうと思いました。

自分の命を守ることによって他の人の命も救うことにながるとわかった。親しい人の最期を通常のとむらい方できず、火葬もすることができない悲しい別れ方しかできないのが自然災害だと知った。避難訓練をしていた学校の生徒が地域の大人を誘導して、たくさん助けたことから、避難訓練をただの訓練と思わずにしっかり真剣にやろうと思った。

実際に津波が起きた学校に行ってみて、本当に津波の恐ろしさを知ることができた。学校の中にたくさんの車や木、ゴミなどがあり、こんなのが津波といっしょに流れてきたらひとたまりもないなと思った。本当の避難場所に避難することができても想定以上の津波がきたら死んでしまうこともあると知って驚いた。

2日間の震災学習を通して、自然から見たときに、人間がどれほど無力なのかということを知らされた。被災地を見て震災前と比べると、鉄筋コンクリート以外の建物はほぼ全て津波によって流されてしまい、コンクリートすらも崩れてしまっているところもあった。現代の技術をもってしても、天災を防ぐことはできないと痛感した。もし、災害にあってしまったときには自分の命と大切な人の命だけは、絶対を守るべきだと分かった。

形あるものは時間とお金をかければ、元通りになることが多いけれど、歴史や文化、命、思い出は、どれだけ時間をかけても、戻ることはないのだということを、改めて思い知った。「やればよかった」という後悔をしないような人生を歩んでいきたいと思った。

私が2日間の東日本体験学習で学んだことは、地震と津波の恐ろしさと、命の尊さや親や先生からの愛などです。1日目の南三陸旧防災対策庁舎は、津波による被害や強さが分かるような建物で、鉄骨だけになった建物を見るだけで心が痛むほどでした。かろうじて形が残っているものの、鉄骨はゆがんでおり、階段はもう足をかけたら崩れてしまうほど悪い状態でした。午後の気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館では、実際に被害にあった学校を見学し、校内は悲惨な状態でした。屋上には、当時津波から逃れるために机を積み上げていた状態でした。ですが、ガイドさんの話によると、「生徒や先生は避難訓練通りに行き(普段とは違うこともあったが)学校での津波による死者は0人だった。」ということを知り、避難訓練の大切さをより実感しました。それに加えて津波の恐ろしさを感じました。2日目のワークショップで、先生からは「災害は戦争と同じ。いじめも全て同じ」ということを聞き、「災害は人の命を奪い、戦争ももちろん、いじめも時に人の命を奪うことがある。」ということ災害の恐ろしさと共に学びました。他には「避難訓練は命を守る行動であり、生きるためである」ということから、生きることは災害で生きなくても生きられなかった人々のために自分の尊厳を守りぬき、あきらめず生きることを大切にすべきと学びました。

これらのことから、震災によって奪われた多くの命の尊さと共に多くの目をそらしたくなるほどの事実を受けとめました。あの日の悲劇を繰り返さないために訓練はもちろん、しっかり命の重さと尊さを理解し、これからの人生に今回の学びを生かし、未来に向けて生きていこうと思いました。これからも学んだこと、見たこと、聞いたことを後世に伝えて3月11日を忘れぬようにしていきたいです。

